

## 【授業科目】成人看護学概論 Introduction to Adult Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉崎 一美、豊田 妙子	2年次前期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>授業概要/ライフサイクルからみた成人の特徴、発達課題、健康の動向と保健・医療福祉政策について概観し、成人期にある人の健康障害、成人看護学で活用する理論・モデルについて講義する。また成人の健康状態に応じた看護についても教授する。</p> <p>講義形式で、教科書を使用しながら適宜資料を配布して行う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。或は全体の総評コメントを授業内で提示・資料配布により公開する。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	<p>① ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその定義・発達課題について説明できる。</p> <p>② 成人の取り巻く社会環境と成人の生活、健康の動向、保健・医療、福祉政策について説明できる。</p> <p>③ 成人期にみられる健康障害と看護について説明できる。</p> <p>④ 成人に対する健康学習支援、成人看護学で活用する理論・モデルについて説明できる。</p> <p>⑤ 健康状態に応じた看護(急性期、回復期、慢性期、終末期)について説明できる。</p>							
時間外学習 に必要な 内容・時間	<p>第1～15回事前学習：各回の授業テーマに応じて、指定の教科書を事前に読んでおく(各2時間)。</p> <p>第1～4回事後学習：各回の授業内容を振り返り、不足部分は自己学習にて補っておく(各2時間)。</p> <p>第5、6回事後学習：疾病が患者・家族に及ぼす影響について復習しておく(各2時間)。</p> <p>第7回事後学習：成人に対する健康学習支援について復習しておく(2時間)。</p> <p>第8～13回事後学習：成人看護学で活用する理論・モデルについて復習しておく(各2時間)。</p> <p>第14、15回事後学習：健康状態に応じた看護について復習しておく(各2時間)。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 「成人」とは、ライフサイクルからみた成人期の位置、発達課題</p> <p>第2回 成人の取り巻く社会環境と成人の生活</p> <p>第3回 成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策1 保健統計からみた成人の健康動向</p> <p>第4回 成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策2 成人各期にみられる特徴的な健康問題</p> <p>第5回 成人期にみられる健康障害1 生活習慣に関連する健康障害</p> <p>第6回 成人期にみられる健康障害2 ワーク・ライフ・バランスと健康障害</p> <p>第7回 成人に対する健康学習支援 自己効力、アンドラゴジー、エンパワメント</p> <p>第8回 成人看護学で活用する理論・モデル1 ケアリング</p> <p>第9回 成人看護学で活用する理論・モデル2 危機理論 (グループワーク)</p> <p>第10回 成人看護学で活用する理論・モデル3 ストレス・コーピング (グループワーク)</p> <p>第11回 成人看護学で活用する理論・モデル4 病みの軌跡</p> <p>第12回 成人看護学で活用する理論・モデル5 セルフケア</p> <p>第13回 成人看護学で活用する理論・モデル6 悲嘆、死の受容過程</p> <p>第14回 成人の健康状態に応じた看護1 急性期看護、回復期看護</p> <p>第15回 成人の健康状態に応じた看護2 慢性期看護、終末期看護</p>						<p>杉崎 豊田 杉崎  杉崎  杉崎  豊田  豊田 杉崎 杉崎 豊田 豊田 豊田 杉崎  豊田</p>	
評価方法 評価基準	<p>定期試験 60%、提出課題・グループワーク 40%で総合的に評価する</p>							
教科書	<p>黒江ゆり子編『成人看護学概論/成人保健』メジカルフレンド社 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 (2年次前学期「公衆衛生学」で購入したもの)</p>			参考 書等	<p>講義の中で適宜紹介する。</p>			
学生への 助言等	<p>授業に集中しメモをとり、看護学概論等、既修科目と結びつけて内容を理解できるように努力してください。そして成人看護学概論を基盤として、成人急性期看護援助論、成人慢性期看護援助論、成人急性期看護学実習、成人慢性期看護学実習に繋げてください。</p>							